

## 平成30年度 上峰町立上峰中学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b> 心豊かにたくましく生きる生徒の育成 ～自ら考え、適切に判断し行動する 中学校生活を通して～	<b>2 本年度の重点目標</b> ① 基礎・基本の確実な習得と活用力の伸長 ② 豊かな心と社会性の育成 ③ 基本的生活習慣の確立と健やかな体力の向上 ④ 教職員の業務改善や長時間労働の解消に向けた環境づくり
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① 基礎・基本の確実な習得と活用力の伸長						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●学力向上	1. 校内研究への取組による指導方法の改善 2. 意欲的かつ望ましい学習態度・学習規律の育成 3. 家庭学習・補充学習の充実 4. 読書活動の充実	1. 指導法の工夫・改善を図り、生徒がわかる喜びを実感できる授業を構築する。 2. 習得・活用・探究を図る学習活動や、思考・判断・表現力の育成をめざした学習活動の充実を図る。 3. 学習意欲を喚起し基礎・基本の徹底指導と学び方を習得させる。 4. 読書習慣を身につけさせ、読書に親しむ態度の育成を図る。	・全職員による公開授業と授業研究会の実施。TT授業等の研究。各種研修会への積極的な参加。学習状況調査等を活用した学習指導の展開。 ・学び合い活動に言語活動を組み込んだ指導法の研究。 ・学習規範の指導徹底。授業のねらいや流れを明確にした授業の確立。 ・年間を通じた朝読書の実施。 ・生徒会図書部との連携による図書館利用の充実。 ・「すくすくテスト」や「学習クスマッチ」、佐賀大学と連携した長期休業中の補充学習等の推進。	校内研修 学力向上	☆澁谷 ☆吉村 ☆上野 ☆川上 ☆北村 ☆福田
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	1. ICT機器を効果的に活用した授業づくりの推進	1. 電子黒板の操作の習得を図る。 2. ICT機器を活用した授業の進め方について研究を深める。また、研修体制の強化を進める。 3. ICT機器を活用する教材の開発及び環境整備を推進する。	・ICT活用教育のリーダーを中心に、ICT機器を活用した授業を各教科で研究・実践。 ・ICT活用教育の研修会を実施する。 ・ICT機器を活用した教材の開発を全教科で推進し、活用できる教材のストックの増加。	情報教育	☆松田 ☆吉田 ☆樋口 ☆島
② 豊かな心と社会性の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●心の教育	1. 豊かな心を育む道徳の授業の充実 2. 基本的生活習慣の定着 3. お互いを尊重しあえる人間関係づくりの推進 4. 生徒会活動の活性化	1. 道徳的価値に基づいた生き方の自覚を促す授業の充実を図り、正しい判断・実践力の育成をめざす。 2. 「あいさつ・無言清掃・時間を守る」を中心として、基本的な生活習慣の定着を図る。 3. コミュニケーション能力や人間関係構築能力を高め、社会適応能力を育成する。 4. 生徒の自主性と創意を生かした生徒会活動を展開する。	・道徳の授業の研鑽、教科指導・体験活動等、全教育領域において、心の教育の充実を図る。 ・日常におけるあいさつの励行、無言清掃と集会における無言入退場。 ・ノーチャイム運動の充実と学年の連携による遅刻をなくす指導の強化。 ・Q-U検査を活用した、ソーシャルスキル教育の計画的な展開。 ・複数担任制による生徒観察・指導の強化充実。 ・日々の教育相談活動や週末アンケート等による生徒の実態把握、人権尊重を大切に授業や行事の実践。 ・生徒一人一人が活躍できる学校行事や体験活動の充実。 ・高いリーダー性を持った生徒会役員の育成と1、2年生のリーダー育成。	道徳教育 生徒指導 生徒会	☆上野 ☆新開 ☆高田 ☆吉田 ☆原 ☆石松 ☆川上 ☆吉村 ☆森
教育活動	●いじめ問題への対応	1. 人権・同和教育の推進を含めたいじめ防止のための教育実践 2. いじめの早期発見・早期対応に向けた取組	1. 道徳、特別活動をはじめとした教育活動において、いじめ防止のための心の教育につとめる。 2. 人権を尊重し、正しい判断の豊かな社会を築く人間の育成をめざす。 3. いじめの早期発見を徹底するため、生徒理解・指導と教育相談体制のさらなる充実を図る。 4. いじめの早期対応を徹底するための、対応力・指導力と教育相談体制のさらなる充実を図る。	・道徳や特別活動において計画的に「いじめ防止」に関する題材・活動を取り入れる。 ・「週末アンケート」の実施方法や結果の活用方法について絶えず検討・修正を加える。 ・教育相談部を中心に各学年で協力するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を密にする。 ・インターネット上のいじめに対応するために情報モラルの教育を計画的に行い、いじめ防止に努める。	生徒指導 教育相談 人権・同和教育	☆新開 ☆川上 ☆北村 ☆古賀 ☆島 ☆樋口 ☆吉田 ☆松門寺
③ 基本的生活習慣の確立と健やかな体力の向上						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	1. 部活動指導による人間形成 2. 健康管理意識の向上 3. 安全教育の徹底と危機回避能力の育成	1. 心と体を育てる部活動の経営に努める。 2. 自らの健康を考えながら毎日の生活を送る態度と実践力を育てる。 3. 学校内外において安全な生活を送ることができるよう危機回避能力を育てるとともに、生徒が安全に過ごすことができる環境作りを努める。	・全員部活動の実施、及び、活動を通じた技術や体力の向上、忍耐力・自主性・社会性・協調性・公平さ等の育成。 ・定期健康診断の実施と事後措置及び健康保持増進に向けた指導、健康に対する情報の伝達。 ・食生活を含む望ましい生活習慣の確立。 ・交通安全や防犯教室、避難訓練の実施、各施設の点検及び補修。 ・学校内外の危険箇所マップの活用、緊急メールによる情報の速やかな発信。 ・立ち番指導による生徒の登下校時の安全確保。	体育 保健 安全 食育	☆櫻木 ☆福田 ☆松門寺 ☆相島 ☆森 ☆北村
④ 教職員の業務改善や長時間労働の解消に向けた環境づくり						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	1. 学年・学級経営の充実 2. 業務改善マニュアル作成と徹底 3. 衛生管理の改善充実	1. 学年の協同意識を高め、職務の効率化と生徒への指導の充実を図る。 2. 「仕事にやりがいを感じている。」と答える職員を90%以上にする。 3. 多忙感解消で、時間外勤務時間を前年同月より10%以上減らす。	・学年会で、情報交換や協議を行い、共通理解に基づき複数担任制を生かした協働を推進する。 ・各種業務項目のマニュアル化で共通理解を進め、業務の無駄をなくす。 ・タイムマネジメントを行うと共に、定時退勤日の確実な実施を行う。	総務	☆教頭 ☆原 ☆松永 ☆松田
学校運営	○特別支援教育	1. 特別支援教育体制強化 2. 個別の支援の充実と専門機関等との連携強化	1. 特別支援教育について理解を深め、全職員による指導体制の強化を図る。 2. 特別支援学級の生徒だけでなく、普通学級に在籍する特に支援を要する生徒の指導の充実を図る。 3. 特に支援を要する生徒や不登校生への専門機関との連携による指導支援の強化を図る。	・特別支援教育についての研修会への参加と校内研修の充実。 ・個別の支援計画の作成及び効果的な活用、指導法の改善と全職員による協力体制の確立。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員の有効な活用。	特別支援	☆古賀 ☆原 ☆平田 ☆福田
学校運営	○開かれた学校づくり	1. 学校公開と情報の発信 2. 地域と連携した学習の推進	1. 学校の情報を発信し学校の説明責任を果たすとともに家庭や地域の声を学校経営に反映させ、地域と一体となった教育をめざす。 2. キャリアデザインにつながる体験活動や地域の伝統芸能に触れる活動などを通して、地域と連携した教育活動を充実させる。	・学校だより・上中らひ(学校行事紹介写真)の地域回覧、ホームページ更新、授業参観・オープンスクールやPTA活動活性化のための企画力向上。 ・学校評価の効果的な活用、保護者との日常的な情報交換の機会拡充。 ・地域や保護者の協力による職場体験の実施や地域の伝統芸能を取り入れた総合的な学習の実施。	情報教育	☆澁谷 ☆北村
学校運営	○小中連携	1. 小中の学力面・生徒指導面の連携 2. 中1ギャップや不登校の解消	1. 9年間で育てる視点に立ち、小中のつながりを大切に学力向上や生徒指導の充実を図る。 2. 小中の接続をスムーズにし、中1ギャップや不登校の解消に努める。	・計画的な小中連携活動(子どもの交流、教職員の交流、子どもと教職員の交流)の促進。 ・学力向上に向け、年間指導計画や教科の指導内容等を考慮した交流会の実施。	校内研 小中連携	☆澁谷 ☆松永 ☆原
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目